

地震への備えを確認しましょう

区内でも大規模な被害が発生するとされている首都直下地震は、30年以内に7割程度の確率で発生すると想定されています。今年は、東日本大震災から10年を迎えます。今一度、災害から身を守るための備えを確認しましょう。

在宅避難に備えましょう

● 日常備蓄を行いましょう

電気・ガス等のライフラインや物資の供給が止まった場合に備えて、日ごろから食料・生活用品を少し多めに用意しておく「日常備蓄」を行いましょう。備蓄量の目安は「家族の人数×7日分」です。



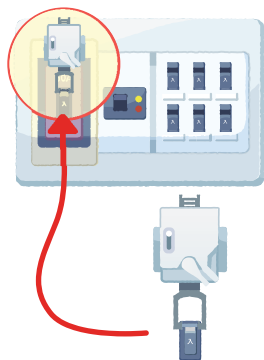
7日分の備蓄量の目安（1人当たり）

- ▶飲料水 …………… 3ℓ（1日当たり）×7日分=21ℓ
 - ▶食料 …………… 3食（1日当たり）×7日分=21食
 - ▶携帯トイレ …… 5回（1日当たり）×7日分=35回分
- ※そのほか、懐中電灯、モバイルバッテリー等も備蓄しましょう

● 通電火災を防ぎましょう

通電火災を防ぐためには、揺れを感知した際に自動的にブレーカーを落として電気を止める「感震ブレーカー」の設置が効果的です。

区では、感震ブレーカー等の設置工事費・器具購入費を助成しています。65歳以上のみの世帯の方等には、簡易型感震ブレーカーと自動点灯ライトの無料配付も行っています。詳細は、お問い合わせください。

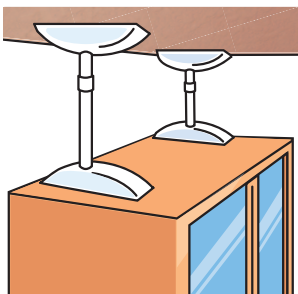


▲感震ブレーカー

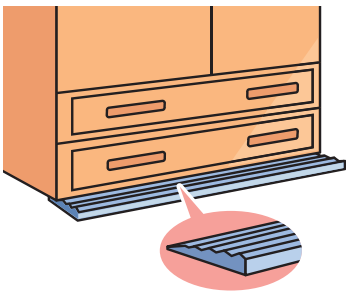
● 家具類の転倒・落下を防ぎましょう

自身や家族の負傷の防止や円滑な避難、その後の在宅避難のためにも、家具類の転倒・落下防止対策を行いましょう。

区では、家具等の転倒や落下を防ぐための器具設置工事や器具購入の費用を助成しています。詳細は、お問い合わせください。



▲ポール式器具(突っ張り棒)



▲ストッパー式

避難方法等を確認しましょう

● 荒川区防災地図・防災アプリを確認しましょう

日ごろから、建物の倒壊や火災の恐れがある場合等に避難する避難場所等を確認しましょう。

①荒川区防災地図(地震版)

配布場所

区役所 1 階総合案内・3 階防災課・4 階広報課、各区民事務所

※荒川区ホームページからもダウンロード可

②荒川区防災アプリ

右の二次元バーコードからダウンロードしてください。



▲iOS用



▲Android用

● 家族との連絡方法を確認しましょう

災害時は、電話がつながりにくくなります。災害時にNTTが開設する「災害用伝言ダイヤル」（番号171）や各携帯電話会社が設置する「災害用伝言板」の使い方を、事前に確認しましょう。

● 災害時安否確認ツールの使い方を確認しましょう

①災害時安否確認シール

安否確認が必要な家を識別するために使用します。家の中にいる人が無事な場合に、外から見やすい場所にはりましょう。

②避難者カード

自分がどこに避難しているかを明らかにするものです。事前に記入し、災害時には一次避難所等に持参しましょう。



▲災害時安否確認シール



▲避難者カード

配布場所

区役所 1 階総合案内・3 階防災課、各区民事務所
※避難者カードは荒川区ホームページからもダウンロード可

震災の教訓を活かして～東日本大震災から10年 荒川区長 西川太一郎

平成23年3月11日に多くの尊い命を奪い、東北地方を始め広範な地域に未曾有の被害をもたらした東日本大震災から、早10年が経ちます。

改めて、この震災でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、最愛のご家族を失われたご遺族の方々に対し、衷心より哀悼の意を表します。また、今なお避難生活を強いられている方々に、心からお見舞い申し上げます。

この10年、荒川区におきましても、災害時

に「一人の犠牲者も出さない」という強い決意のもと、震災の教訓を活かして、町会の方々为主体となった地域における避難所の開設・運営訓練の実施、永久水利施設の整備や中学校防災部の創設を始め、多くの災害対策を講じ、数々の防災事業を実施して参りました。

近年、地震のみならず、風水害が頻発し、全国各地に甚大な被害を及ぼしています。今、自然災害が起これば、新型コロナウイルス感染症との複合リスクも想定しなければなりません。

このような状況のもと、区民の皆様におかれましても、この10年という節目の年に、改めて東日本大震災の記憶を呼び起こすとともに、ご自宅で食料・飲料水の日常備蓄を行い、ご家族で避難方法の確認を行う等、災害への備えに取り組んでいただければと思います。

区では、区民の皆様が安心して安全に暮らしていけるよう、引き続き、全力で災害対策に取り組んで参りますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

問合せ 防災課防災管理係 ☎内線492